

2019年度  
第10回

# 学生チャレンジ企画

社会貢献、国際交流、大学の活性化など、  
学生の取り組みを大学が応援し、サポートする制度です。



**募集!**



## グループ部門/個人部門

学生チャレンジ企画の第10回を記念して従来の学生チャレンジ企画に個人部門を新設。  
1名でも応募できます。

- 募集期間** 4月上旬～5月中旬
- 応募資格** 本学に在籍する学生(大学院生、別科生含む) ①グループ部門 3名以上 ②個人部門 1名
- 採用** グループ部門、個人部門併せて10件程度を予定(企画に応じて活動資金が支給されます)

お問い合わせ先

文京キャンパス  
広報室

**TEL.03-3947-7160**  
E-Mail : web\_pub@ofc.takushoku-u.ac.jp

2018年度  
第9回

# 学生チャレンジ企画 実施報告書







講評

# 学生チャレンジ企画を終えて

拓殖大学副学長 学生チャレンジ企画実行委員長 芦田 誠

学生チャレンジ企画は、国際交流や地域貢献、大学の活性化、ボランティアなどの分野で活動する学生をサポートするため、拓殖大学創立110周年記念事業の一環として2010年にスタートし、以後毎年多くの取り組みが行われてきました。

2018年度は過去最高の34件の応募があり、第1次選考の書類審査と第2次選考のプレゼンテーションを経て、最終的に5件の企画が採択されました。勝ち残った5団体は必要経費によって活動資金に差が付きましたが、内容的にはいずれも大きな成果が期待されるものばかりでした。

本報告書は、今年度採択された5企画の実施スケジュール、実施内容と成果、収支報告、反省点を示したものです。まず注目されるのが成果ですが、成果については一昨年より見える化を図り、2018年12月1日に成果報告発表会を開催しました。その結果、「2018年度学生チャレンジ企画の全体的な評価は例年以上にすばらしい活動が多かった」というのが審査員一同の総意でありました。その中で、館ヶ丘団地新設の地域食堂「たてキッチンさくら」を支援するデザインプロジェクトが地域創生の国際学部徳永ゼミとボード製作の工学部工藤研究室との連携がすばらしく、地元館ヶ丘団地からも高い評価を得ているということで見事チャレンジ大賞を獲得されました。

また、チャレンジ賞には国際貢献とチャレンジ力が感じられた#MMPの「餅でつなぐ日本&モンゴル」プロジェクト、ならびに説得力のある寸劇で危険個所の見守りが大切であることを

訴えた守山・渡邊ゼミ連合の2団体が選ばれました。

また、反省点も注目されます。想定外の事態への対応、適切な要員配置、スケジュール調整の難しさ、学生の主体的な取り組み、プライバシーや個人情報への配慮などの反省点が5団体から挙げられています。

「失敗しない者は、つねに何事もなしえない」と語ったのはアメリカの国際法学者フェルプスです。失敗を恐れずアクションを起こすことが重要で、たとえ結果がパーフェクトでなくとも実体験から学ぶことも多いと考えます。情報共有や臨機応変な対応、綿密な下準備や打ち合わせの必要性、メンバー間の信頼関係の重要性等を理解し、今後の大学における知の練磨や、やがて始まる就職活動に生かしていただければ学生チャレンジ企画の目的は十分果たすことができたと考えます。本企画の経験を今後にも生かすことも重要です。

お陰さまで、今年度も学生チャレンジ企画を盛会裏に終了することができました。これも偏に学生を指導して頂いた教授の先生方、また企画を積極的に受け入れて頂いた行政機関、企業、各種団体のお陰と深く感謝しております。この場を借りまして厚くお礼申し上げます。

結びに、本報告書をご覧いただき、学生チャレンジ企画がもつ意義を理解し、次年度の学生チャレンジ企画10周年への応募につなげて頂ければうれしく思います。



学生チャレンジ企画は創立110周年を記念して、2010年にスタートしました。

この取り組みは社会や地域貢献、国際交流、ボランティア、大学の活性化などにつながる活動を積極的に行っている学生をサポートするものです。

第9回となる2018年度は、34件の応募があり、書類選考及びプレゼンテーション選考の結果、5件の企画が優秀企画に選ばれました。

この実施報告書は、採択された企画を実行した学生たちの約1年間にわたる活動の集大成です。ぜひ、拓大生のチャレンジ精神に触れてみてください。

## スケジュール

4.9(月)  
5.18(金)  
募集期間

ホームページ  
HPオープンと連動して学内に募集告知ポスターを掲示しました。



3月  
最終報告

活動の集大成である報告書を作成し今年度のすべての活動を終わりました。

12.1(土)  
成果報告発表会

活動の成果を報告し、チャレンジ大賞、チャレンジ賞、奨励賞が決定しました。

6.4(月)  
第1次書類選考発表

6.9(土)  
第2次プレゼン審査

5団体が優秀企画として採択されました。

選考結果発表

採択通知授与式

10月  
紅陵祭  
ワークショップ・活動報告

各グループが活動の際に利用した道具などを展示。さらには、日替りでワークショップを開催しました。



プレゼンテーションの様子  
応募全34件のうち8件が第2次プレゼン審査に進みました。

採択通知授与式  
各団体の代表者が活動への決意表明をしました。







# 拓殖大学・中国人留学生の物語

団体名

## 中国人留学生会

代表者 商学部 国際ビジネス学科 2年 袁子堯  
参加メンバー人数 15名

### 実施スケジュール

平成30年6月28日～11月10日

- 6月28日 文京キャンパスでの撮影
- 6月29日 渋谷での撮影
- 7月4日 拓殖大学を受験するための準備シーンを撮影
- 7月6日 日本新華僑通信社の社長との撮影
- 7月23日 新宿での撮影
- 7月28日 新宿での撮影
- 7月29日 エリート日本語学校での撮影
- 8月3日 八王子での撮影
- 8月5日 八王子での撮影
- 8月8日 池袋で撮影についての勉強会
- 9月9日 池袋で動画編集についての勉強会
- 9月1日 動画編集期間
- 10月19日 紅陵祭でドラマを公開
- 11月10日 中華人民共和国大使館教育所「日中40周年」発表会参加

### 実施内容・成果

2017年は日中国交正常化45周年、日中友好平和条約40周年の年です。この2つの記念日を誇りに思いつつ、またさらなる日中友好の歴史をこの拓殖大学を中心に続けたいと思い、このプロジェクトを始めました。

またその理念の実現のために、拓殖大学の中国人留学生に日中友好を実現するための諸活動をするモチベーションを高める必要があると感じ、日本における中国人留学生の歴史のドキュメンタリー作品を制作することを決めました。その作品を多くの中国人留学生が視聴すれば、モチベーションが高まると期待して活動を開始しました。以下に、具体的な活動を記します。

6月から9月までの間に日本大学芸術学部の中国人留学生会との共同撮影を行いました。序盤、撮影は順調に進みましたが、途中から双方の言い分が食い違ふようになり、口喧嘩を繰り返すようになり、ついには解散という言葉まで聞こえてくる有様でした。

しかし、出演者とのインタビューが終わり、撮影全体の完成も見えてくると、みんなの顔に笑顔が浮かんできました。最終的に撮影が完了する頃には、我々がかつての不和を忘れ、ともに喜び合いました。

9月から動画編集に入りました。場面の切り替え、字幕などの編集は、学生たちの手によって順調進められました。しかし、ナレーションの録音・挿入に困難を極めました。



11月10日、中華人民共和国大使館教育所でメンバーたちが集合、準備。

当初は、ナレーションも我々の手で作成する予定でしたがうまく行きませんでした。そこで、中国本土の動画編集会社に依頼をしました。しかし、労力のアウトソーシングは容易だと考えていましたが、これが技術の内製化と同様に困難であることに気付かされました。本国の会社と電話でこちらの意見を伝えるのに困難を極めました。最終的に、何度も会社とコミュニケーションを重ねたことにより、作品を完成させることに成功しました。以上の活動を通して得られた成果として、3つが挙げられます。

1つ目は、拓殖大学の八王子国際・文京両キャンパスの学生の交流が増えたことです。ドキュメンタリー作品を制作する過程において、両キャンパス間を何度も行き来しました。そのため、我々、メンバーのそれぞれ友人関係は大幅に高まりました。その友人は、日本人、中国人を問わず、増えました。故に、我々はこの出来事が、拓殖大学内の国籍を問わない連帯感を高めた大きな成果であったと確信しています。

2つ目は、他大学の中国人留学生のネットワークが構築されたことです。彼らと友人関係になれたことはもちろんのことながら、「もっと中国人留学生のモチベーションを高めたい」という我々と同じ志を持つ学生と行動をともにできたことは大きな成果だと考え



11月10日、中華人民共和国大使館教育所で今度の活動について、発表の様子。

ます。彼らとは、それ以来、連絡を現在も取り合っており、中国人留学生のモチベーションを上げるための活動を、複数の大学でできないかと常に計画しています。

3つ目は、日中両国の友好関係の構築に中国人留学生が関われる様になったことです。我々が精力的にドキュメンタリー作品を制作しているさなか、突然の朗報がもたらされました。なんと、我々の活動が在日中国大使館に伝わり、その活動に感銘した大使館員の方々が、拓殖大学中国人留学生会は拓殖大学の正式団体として、我々を中国大使館から2018年10月7日に中国大使館及び外務省が参列する「日中40周年」という催し物に招待して下さったのです。そこで、我々は大使館員の方々に「日本の大学の学修環境の良さ」、特に「拓殖大学の学修環境の良さ」「中国人留学生に対する、学生・教員たちの温かい気遣い」を訴えました。その結果、大使館員の方は我々の言葉を貴重な意見として関心を持って聞いてくださり、さらには「大使館としても日本にさらに我が国の留学生を招待するつもりである」という意向を我々に示してくれました。実際に留学生が増えたか、というその成果は未来を待たねば確認はできませんが、もし増えたとするならば、そこでの我々の行動がその成果に寄与したであろうということを確信しています。

### 反省点など

今回の我々の活動において反省する点が3つあります。

1つ目は、日本新華僑報の代表取締役、蒋豊氏へのインタビューにおいてです。蒋豊氏へのインタビューにむけて我々は、20年前の中国人留学生の勉学への姿勢と生活についての克明な事実を把握できるように、的確であると思われる質問を準備して臨みました。インタビュー当日、我々の質問によって、想像する以上の有益な答えを蒋豊氏から得られることができました。しかし、蒋豊氏の有益な答えに対し、我々はそれに関連する質問をその場で考えてレスポンスすることができませんでした。インタビュー中も、臨機応変にインタビューを充実したものにするための返答を考えていたのですが、インタビュー終了までに発言に足るものを見つけ出すことができませんでした。ひとえに、この失態の全責任は、インタビューの質問役を担当した私、袁子堯にあります。

2つ目は、日本大学芸術学部の中国人留学生会との交流においてです。彼らは我々が行う本プロジェクトと類似のものを計画しており、当初は、交流を通して、お互いに有益になる活動をし、お互い

の情報・技術を提供し合う予定でした。しかし、交流当日は、ただ一方的に彼らの要求に応えるばかりでした。この交流の結果は、彼らの行動に非があるとも考えられますが、自らの組織の要求を明確かつ簡潔に伝えられなかった、我々にも非があります。この失敗を通して我々は、複数の組織が協力せんとする中で生まれる不和には、双方に原因を探る必要があることを学びました。

3つ目は、組織の人員配置においてです。我々はメンバー同士でスケジュールを共有していました。そのスケジュールを基に、総勢16人のメンバーがいつも集まることができないことを覚悟しながら、なるべく多くの人が参加して組織の最大限の力が発揮できるように活動の日程を設定していました。しかし、日々の活動にメンバーの能力の多様性に驚かされながらも、その能力を適切に管理できませんでした。あるときには過剰に、あるときには過少にメンバーが集ったときも多々ありました。活動する日ごとに求められる能力が違う中で、その時々適切な人員を配置できたかは、プロジェクトを通して疑問が残るところです。

### 会計報告

|                         |                            |      |          |
|-------------------------|----------------------------|------|----------|
| 支出総額                    | 122,565円                   | 活動資金 | 120,000円 |
| 内訳                      |                            |      |          |
|                         | 項目                         |      | 小計       |
| 委託費                     | 動画編集                       |      | 40,000円  |
| 賃借料                     | レンタカー                      |      | 30,240円  |
| 備品費                     | カメラacc、usb、SDカード デジカメ接続機器  |      | 24,507円  |
| 会合費                     | 日本新華僑報と拓殖大学の先生日本大学の先生へのお土産 |      | 4,494円   |
| 資料雑誌費                   | 動画編集、撮影に関する本               |      | 5,108円   |
| 消耗品費                    | 印鑑/公的なやり取りため               |      | 5,319円   |
| 交通費                     | 電車代                        |      | 9,000円   |
| 賃借料                     | 駐車場代                       |      | 435円     |
| 消耗品費                    | イベントと記入用、画用紙、ノート及びペン       |      | 897円     |
|                         |                            | 合計   | 120,000円 |
| その他活動資金以外にかかった経費【自己負担分】 |                            |      |          |
| 消耗品費                    | ガソリン代                      |      | 2,000円   |
| 賃借料                     | 駐車場代                       |      | 565円     |
|                         |                            | 合計   | 2,565円   |

### ▶ ホームページ掲載

- 実施企画書…………… <http://gakuchalle.jp/2018/kikakusho.html>
- 学チャレレポート…………… <http://gakuchalle.jp/2018/repo4.html>



6月29日、渋谷で歩き「迷い」を撮る。撮影は日本大学の学生。



7月6日、日本新華僑通信社で撮影する前の指導する場面。



8月3日、八王子国際キャンパスで在学様子を撮る。「中国の新聞を読んでいます」





# 茂木ゼミナール「餅」プロジェクト 2018モンゴル (#MMP2018)

団体名

## #MMP (MOTEGI Seminar "MOCHI" Project)

代表者 政経学部 法律政治学科 4年 嶋村 理恵  
参加メンバー人数 4名

### 実施スケジュール

平成30年6月15日～10月21日

- 6月15日 #MMP2018公式Facebook アカウントを開設
- 6月18日 広報室へロゴマーク使用申請書提出
- 6月19日 活動で使用するメンバー名刺の作成
- 6月20日 拓殖大学北海道短期大学の篠塚徹学長面会、企画趣旨説明
- 6月30日 拓殖大学後援会、山崎松恵会長へ協力依頼文送付
- 7月2日 篠塚学長より餅米「はくちょうもち」20kg、黒米「芽生さくらむらさき」のご提供をいただいた
- 7月4日 餅つき実験実施
- 7月9日 横綱白鷗閣へ企画趣旨説明分を送付  
【乾燥餅実験】
- 7月11日 餅つき実験
- 7月15日 現地で使用する、モンゴル語でのポスター作成
- 7月18日 衆議院議員の上野宏史先生と拓殖大学後援会、山崎松恵会長と面会  
【乾燥させた餅の調理実験】
- 7月19日 「カビの発生条件」を資料としてまとめ、メンバーに共有 在日本モンゴル国大使館を表敬訪問 ダンパダルジャー・パッチャルガル大使閣下と面会
- 7月30日 現地持参用餅の作成
- 8月1日 餅つき実験
- 8月2日 群馬県農政部、JAはぐくみ、上毛新聞社を訪問→企画趣旨説明、協力要請
- 8月6日 餅つき実験  
馬頭琴奏者ボルドエルデネ氏と拓殖大学の企画アドバイザーである出村氏と面会、企画趣旨説明
- 8月10日 現地コーディネーターとして参加していただいたダライ氏と、現地での日程確認、その他ミーティング
- 8月18～22日 モンゴル・ウランバートルにて企画実施
- 8月19日 アルファスト村にて遊牧民への餅つき実演
- 8月20日 新モンゴル高校の学生への餅つき実演
- 8月21日 新モンゴル高校への訪問・在モンゴル国日本大使館への表敬訪問・現地メディアからのテレビ取材
- 9月1日 拓殖大学学友会群馬支部総会にて企画の成果報告をプレゼン
- 9月13日 JAはぐくみにて企画の成果報告のプレゼン実施
- 9月19日 紅陵祭準備(ゲル作成)
- 9月24日 来年度の活動方針案のひとつであるサークル化に向けて、説明会参加
- 9月26日 紅陵祭準備(ゲル作成)
- 10月3・10・17日 紅陵祭
- 10月19～21日 紅陵祭
- 10月20日 制作したゲル・現地で使用した臼杵・活動報告書及びパンフレットの展示 これまでの活動をまとめた動画の上映 現地の写真で作成したパズルの展示

### 実施内容・成果

#### 試行錯誤を行いました。

モンゴル人は「餅」をはじめ食べる方がほとんどのため、食べやすいように試行錯誤しました。幾度となく餅つき実験を行い、うるち米を混ぜた伸びの少ない、喉に詰まりにくい「餅」を提供することにしました。そして「芽生さくらむらさき」を餅に混ぜることにより、栄養価向上を図りました。モンゴルではつきたての「餅」だけでなく、プロジェクトの趣旨である保存食としての餅を持参するため、乾燥餅を作成する実験も行いました。乾燥餅実験では、実際に餅を吊し水分量と温度を測り観察を行いました。その結果、カビが生える水分量や温度・湿度がわかり、モンゴルの環境では餅にカビが生えないことがわかりました。プロジェクト目標のひとつでもある日本の農業促進のため、地域連携にも力を入れました。群馬県農政部、JAはぐくみ群馬、そして上毛新聞にプロジェクトの概要をプレゼンし、意見交換会を行いました。

#### 出発前にいただいた質問について

学生チャレンジ企画でのプレゼンテーション時にいただいた質問については、即時に検討を開始し、回答をまとめて全てプロジェクトのパンフレットに記載をし、学友会の支部総会や紅陵祭等で展示・配布し説明しました。



遊牧民との餅つき実演の様子

#### 協力いただいた方々

現地での実演に向け、拓殖大学北海道短期大学の篠塚徹学長から、もち米「はくちょうもち」、北海道短期大学で収穫した「芽生さくらむらさき」をご提供いただきました。また、拓殖大学後援会会長の山崎松恵氏のご紹介で、国会議員の上野宏史先生にお会いしました。上野宏史先生からは在日本モンゴル国日本大使館、ダンパダルジャー・パッチャルガル大使閣下をご紹介いただき、表敬訪問を行いました。

#### モンゴル国での活動

現地に到着し、首都ウランバートルから100kmにあるアルファスト村の遊牧民の方々に餅つき実演し、試食、アンケート調査を行いました。つきたての餅はもちろん、乾燥させた長期保存用餅を油で揚げた餅の試食も行いました。用意したのは、塩・醤油・きな粉の3種類で、揚げ餅では醤油、つきたてのものはきな粉が人気でした。

翌日は、日本語が話せる学生が多く在籍する現地の高校生の前で餅つき実演を行い、試食、アンケート調査を行いました。高校生からは、「餅に羊の肉を挟んで食べてみたい。」といった意見なども聞くことが出来ました。

在モンゴル国日本大使館を表敬訪問した



乾燥餅実験での水分量を計る様子



現地メディアから取材を受けている様子



在モンゴル国日本大使館表敬訪問の様子



群馬県JAはぐくみとの意見交換会の様子



在日本モンゴル国大使館表敬訪問の様子

際には、プロジェクトの趣旨を説明し、今後の活動への意見をいただきました。

モンゴル人は好奇心旺盛なため、馴染みのない食べ物も広まることができました。その後、現地のテレビ取材を受け、メディアを通してモンゴル国に「餅」を宣伝してきました。

#### 調査報告

帰国後は現地での調査報告を学友会群馬支部総会、JAはぐくみ群馬にて行いました。実際に現地での反応やアンケート集計結果を報告し、今後の地域連携の可能性について意見をいただきました。

### 反省点など

#### 苦労した点

モンゴルの出発の日までの限られた時間の中、様々な方へプロジェクトの協力をお願いするため、アポイントメントやスケジュール調整などに苦労しました。

少ないメンバーの中、協力してタイトなスケジュールをこなすのは、大変でしたが、様々な方にお会いし、プレゼンが行えたのはとてもいい経験になりました。

#### 実験での苦労

厳しい冬を越すための長期保存食の提供がこのプロジェクトが掲げる最大の趣旨であり、ついた餅を保存させる為の実験には苦労しました。

餅の乾燥実験では、ヒモで吊した餅の水分量や温度・湿度を毎日調べ、どのタイミングで乾燥するかの実験を行いました。その結果、なかなか水分が飛ばず、カビが生えてしまうという失敗で実験は終

了しました。この経験からカビの発生条件を調べた結果、モンゴルの環境ではカビがほとんど生えない、という結果がわかりました。

#### 現地での反省

現地の移動、通話はコーディネーターのダライ氏に協力いただきました。そのため、想定していたよりも学生主体の活動が少なかった、という反省点があります。また、タイトなスケジュールだったことも反省点のひとつです。

今後は、モンゴル出発までのスケジュールや現地でのスケジュールを計画的にたて、余裕を持って進めていければと考えています。また、現地では学生主体の行動を増やして活動していきたいと考えています。

今後は、餅の商品化の検討や地域経済の活性化、JICAとの連携を今後の活動方針として、茂木ゼミナールの後輩に託したいと思います。

### 会計報告

支出総額 239,064円 活動資金 150,000円

#### 内訳

| 項目                  | 小計       |
|---------------------|----------|
| 交通費 電車代             | 3,888円   |
| 消耗品費 イベント用 実演用品     | 38,811円  |
| 印刷製本費 プリント代及び製本ファイル | 12,368円  |
| 備品費 餅つきセット・背負子      | 86,280円  |
| 会合費 手土産・交流時の配布用菓子   | 2,653円   |
| 雑費 ラッピング代・手荷物料金     | 6,000円   |
| 合計                  | 150,000円 |

#### その他活動資金以外にかかった経費【自己負担分】

|                     |         |
|---------------------|---------|
| 交通費 電車代             | 15,552円 |
| 消耗品費 イベント用品・実演用品    | 18,802円 |
| 印刷製本費 プリント代及び製本ファイル | 7,750円  |
| 会合費 手土産             | 960円    |
| 雑費                  | 46,000円 |
| 合計                  | 89,064円 |

#### ▶ ホームページ掲載

- 実施企画書…………… <http://gakuchalle.jp/2018/kikakusho.html>
- 学チャレレポート…………… <http://gakuchalle.jp/2018/repo1.html>





# 地域で守ろう「子どもの安全」 ～通学路の安心・安全

団体名

## 守山・渡邊ゼミ連合

代表者 政経学部 法律政治学科 3年 原田 大夢  
参加メンバー人数 29名

### 実施スケジュール・実施内容・成果

平成30年6月27日～10月21日

私たち3年守山・渡邊ゼミナール連合は「子どもの安全」をテーマに、文京区窪町小学校と大塚小学校の2つの小学校で防犯教室、見守り活動などの活動を行った。

今年5月7日に新潟県で小学2年の女児が通学路で1人のところを狙われ誘拐、殺害された事件が発生したことから、通学路における「子どもの安全」を企画し、大塚警察署や警視庁の協力を得て、防犯教室は窪町小学校の育成室、見守り活動は大塚小学校で活動を実施することを決定した。

#### 活動日程

7月18日 窪町小学校育成室打ち合わせ

窪町小学校育成室の先生と大塚署警察官、警視庁警察官の方々と守山・渡邊ゼミ幹部で防犯教室、見守り活動の実施に向けて打ち合わせした。

7月25日 防犯教室の打ち合わせ

防犯教室で行う3つイベントについて、両ゼミナール全員で、寸劇班、クイズ班、アン



大塚小学校の下校風景。警察官の前にはビブスを着ているのが、ゼミ生。このように、見守り活動を実施した。



見守り活動を行った大塚小学校の防犯マップと通学路(赤い線)。地図には、子供110番、交通事故発生場所、つきまとい事案などをドットで表示した。



窪町小学校にて防犯教室の寸劇の一場面。下校途中の「女子小学生」が車に乗った「あやしいひと」に連れ去られそうになる場面。小学生たちの感情移入がうかがえた。

ケート班を組織し、各班で活動の内容を打ち合わせした。

8月3日 育成室との事前交流会、寸劇配役決定、アンケート確認

事前交流会では育成室の子どもたちにわれわれの顔を知ってもらうことを目的に、ゼミ有志3人で育成室の子どもたちと触れ合う機会を設けた。

8月8日 第1回大塚小学校打ち合わせ

大塚小学校の校長先生とゼミ生、警察官で今回実施する「見守り活動」の方法、企画を話あった。見守り活動の記録方法などで、さらに8月30日に2回目の打ち合わせを開くことになった。

8月14日 寸劇打ち合わせ、小道具作成

8月16日 第2回窪町小学校事前交流会、防犯教室の会場下見、小道具作成

2回目の事前交流会。前回と違うメンバーで育成室の子どもたちと触れ合うことにした。ゼミ生の中には、子どもの人気を集める者があり、子どもたちとの交流は成功した。また「防犯教室」の会場である小学校のホールの下見をした。

8月20日 寸劇練習

8月21日 防犯教室リハーサル

本番が迫り、この日は小学校のホールを借りて、寸劇、クイズのリハーサルの通しを行った。リハーサルでは育成室の担当者、警察官、両ゼミの先生が参加し、様々なアドバイスをいただいた。

8月27・28日 寸劇練習

8月29日 防犯教室本番

ついに「防犯教室」本番を迎えることになった。本番前にゼミ生は大学に集合し、最後のリハーサルを通した。本番では事前交流会に参加した人の顔を覚えている子どもたちも多く、終始盛り上がりを見せ、防犯教室は育成室の先生や警視庁の方々に好評であった。

8月31日 第2回大塚小学校打ち合わせ

8日の課題の解決のための打ち合わせ。ゼミの先生方も参加し、活動の実施に向けて詰めの協議を行った。但し、カメラで記録する件はプライバシーや保護者の問題もあり、使用は取りやめになった。



「防犯教室」終了後の集合写真。子供たちからの評判も良く、楽しんでもらえたため、寸劇は「成功」だったといえる。



紅陵祭の展示物の一部。ここに、我々の活動のすべてが示されている。

9月6・7日 見守り活動下見

9月18・19日 見守り活動

見守り活動の実施先として、大塚小学校校区の氷川下、上辻通りを登下校ごと交代制で行うことになった。

2日間連続で活動を実施。登校時は予定どおり、グループがいくつかに分かれて、子どもの自宅から「ターミナル」まで、さらに途中の「チェックポイント」まで、そこから学校までと、子どもに付き添って行動した。下校時は一定間隔に人を設置し、子どもに挨拶を交わしたりしながら、見守りを実施した。

10月6日 紅陵祭展示物の準備

10月21日 紅陵祭当日

紅陵祭では学生チャレンジ企画の報告も兼ねた展示会を開催し、「防犯教室」、「見守り活動」の記録と説明、アンケート結果を展示物として出したほか寸劇で使用した小道具なども展示したところ、来場した子どもたちからの人気が高く、また見学に来た警視庁の警察官の方々にも好評であった。

### 反省点など

活動開始から、全体で集まれる時間が作れなかったこと、メンバー間で連絡がうまくいかなかったことなどがあり、ゼミ連合の連携がとれない時期がみられた。そこで、メンバー全体に危機感をもたせるために、種々の喚起を行い、ようやく盛り上がりを見せるようになった。

第1に、この問題は代表である自分のやり方が不十分であると反省した。構成メンバーが30名を超える大所帯であるために、自分の能力ではなかなか末端まで連絡が浸透できなかったからである。しかし、幸いなことにメンバーの中に問題意識の強い者も多く、代表の力不足を補ってくれて、何とか予定の活動を実施でき、外部の協力者からもそれなりの評価もいただいた。

第2に、見守り活動の実施中に、不適切な行動をした者がおり、協力してくれた学校側の教師に注意されたことである。学校側も我々のために活動の機会を提供してくれたのであり、マナー違反を指摘

され、とても残念であった。考えてみれば、我々は刑事政策や犯罪学を学び、ルール違反を防止することを学んでいるはずだ。何よりも、自分たちが見本となるべきであったにも関わらず、このような事態が生じたことを反省したい。

第3に、見守り活動を記録として残り、それを分析して、今後の子どもの安全を考える契機としたかったが、協力者である学校側は、子どものプライバシーや保護者の意向を重視する傾向にあり、これを事前に予測できなかった。我々の認識が甘かった点も反省しなければならぬ。これによって、学生の探求心は社会の視点としばしばずれることを学んだ。

このように、自分にとっても、ゼミ全体にとっても、今年度の学生チャレンジ企画の実施に当たっては反省すべき点や学ぶべき点が多く、それが逆に貴重な経験となった。今後は社会の視点や捉え方を忘れずに、何事にも多角的にしっかりと観察する姿勢を忘れないように心がけたいと考える。

### 会計報告

|                         |                     |             |                      |
|-------------------------|---------------------|-------------|----------------------|
| 支出総額                    | 151,318円            | 活動資金        | 150,000円             |
| 内訳                      |                     | 内訳          |                      |
| 賃借料                     | 施設料(後楽園) 3,963円     | 消耗品費        | 鉛筆×60 3,840円         |
|                         | 施設料(池袋) 4,195円      |             | 文房具 260円             |
| 備品費                     | ウェアラブルカメラ×4 66,022円 |             | カメラバッテリー 10,921円     |
|                         | ポスター 5,886円         |             | SDカード 7,697円         |
|                         | ビブス×2 3,448円        |             | おさんぽコロコロ(小道具) 1,382円 |
|                         | 書籍×3 5,378円         |             | インクカートリッジ 4,550円     |
| 消耗品費                    | マイクロSD×4 18,790円    |             | 印刷用紙 216円            |
|                         | 文房具 3,148円          |             | 小道具 972円             |
|                         | 色画用紙×2 216円         | 印刷製本費       | 印刷代 200円             |
|                         | カラーテープ×2 216円       | 保険料         | 保険加入 8,700円          |
| その他活動資金以外にかかった経費【自己負担分】 |                     | 超過分は自己負担分   |                      |
| 備品費                     | 書籍×3 1,318円         | 合計 150,000円 |                      |
| 合計 1,318円               |                     |             |                      |

#### ▶ ホームページ掲載

- 実施企画書…………… <http://gakuchalle.jp/2018/kikakusho.html>
- 学チャレレポート…………… <http://gakuchalle.jp/2018/repo5.html>





# 先輩から学ぶ、海外で働くということ

団体名

## 甲斐ゼミナール

代表者 国際学部 国際学科 3年 佐藤 幸人  
参加メンバー人数 17名

### 実施スケジュール

平成30年5月23日～10月24日

- 5月23日 八王子国際キャンパスでの企画会議 学生向けのアンケート作成
- 5月24日～6月6日 八王子国際キャンパスでアンケート調査を実施・集計
- 5月30日 正しいメール・手紙の書き方講座実施
- 6月9日～ 先輩方への連絡の開始
- 6月13日 八王子国際キャンパスでの企画会議・進捗確認(以後毎週水曜日)
- 7月12日 内藤俊輔さんに取材
- 8月25-26日 八王子国際キャンパスでのオープンキャンパスに参加
- 10月18-19日 紅陵祭での展示の準備
- 10月21日 紅陵祭での展示
- 10月24日 国際学部の授業、国際学入門での発表

### 実施内容・成果

拓殖大学出身の、世界で活躍されている卒業生の方々が多くいることは事実である。しかしながら、先輩方がどのような国・分野で活躍し、どのような経緯で現在に至るのかを知らない学生が多くいることも事実である。また、漠然とした海外で働くことへの憧れを抱いている学生もいる。甲斐ゼミナールでは、定期的に先輩方にお越しいただき、自らの体験や在学中のアドバイスなどを聞く機会が多くある。それらの経験から、拓殖大学の先輩方の話を当ゼミや国際学部に限らず、在学生や高校生に伝えることで、学生の将来の選択肢を増やすことや、高い意識を持ち充実した学生生活を送ることに繋がる

のではないかと考えた。そして、学生が抱えていた漠然とした憧れや、不明確な目標を、より身近で現実的なものへ変化させることを目標に、当企画に取り組んだ。

当企画を始めるにあたり、学生の海外で働くことに対する意識調査が必要だと感じ、学生を対象にアンケートをおこなった。363名の学生が回答し、海外で働きたい・海外で働くことに興味があると回答した学生は、全体の83%にのぼった。一方、海外で働くまでの過程について知っているという回答した学生は、全体の12%だった。しかしながら、83%の学生が、具体的な事例を知りたいと回答し、多くの学生が海外で働く先輩について知りた

いと考えていることがわかった。先輩方への取材はメールが中心となるため、甲斐教授の指導のもと正しいメール・手紙の書き方講座を実施した。取材は、担当を決めそれぞれの進捗状況を確認しながら行った。聞きたい内容を明確にするため、質問内容を決め、統一をした。質問事項には、学生アンケート内の、学生からの質問を加えた。先輩方には、質問の回答他に、職場環境などがわかる写真の提供をお願いした。7月まで日本に滞在していた内藤俊輔さんには、スケジュールを合わせ、直接取材した。

冊子制作は、PowerPointとIllustratorを使用し、読む人の興味を引くために、色鮮やかな写真を多く使用し、構成を簡単なものにして手に取りやすいものにした。

オープンキャンパスでは、国際学部の就職活動相談ブースを借りて活動した。事前に調べた国際学部の学生の就職状況や就職先などの情報や、参加メンバーの就職活動の状況の説明の他に、国際学部や拓殖大学、学生生活に関する高校生たちの疑問に自由に答える在学生との交流の場を設けた。また当ゼミには、様々な留学制度に参加した学生が所属しているため、留学についての説明の場を作り高校生がブースに入りやすい環境を作った。

### 反省点など

今回の企画で実感したことは、集団での活動の難しさだ。スケジュール管理や予算の管理など、集団で企画を進めるためには必要不可欠なことが多くあるが、当初の予定通り進まないことが多くあった。スケジュール管理では、それぞれの参加学生の予定がなかなか合わず、週に15分ほどのわずかな時間と、SNS等を使った話し合いしかできない時期が続いた。直接話し合える時間が限られていたため、冊子制作のイメージの共有や、作業の分担大変苦労した。また、それぞれの参加学生の進捗状況も異なるため、細かな確認が必要とされた。先輩方に取材した際も、企画内容の説明や協力のお願いに多くの時間がかかった。また先輩方それぞれで質問事項への返答までの期間も異なり、所属する団体や企業への許可を取る必要があったため、予定通りに進まないことが多々あった。加えて、冊子制作の費用も、見積りの価格より高くなってしまったなど、企画を通して、当初の想定通りに進まなかった。しかしながら、上記のような想定外のことが起こった際に、臨機応変に対処することが出来たため、結果として当初の目的を達成できたと思う。

反省点としては、当初企画していた、高校での出張授業ができなかったことが挙げられる。要因としては、インタビューや写真の掲載許可に想定より多くの時間がかかり、冊子の完成時期が大幅に遅れてし

まったことや、協力校と繋がりを持つ一人の学生に担当させたまま、夏季休暇期間に入ってしまう進捗状況の確認が滞ってしまったことが考えられる。出張授業の代わりとして、オープンキャンパスと国際学入門でのプレゼンテーションを意欲的に行った。オープンキャンパスでは、より多くの来校者に説明するために、就職課と協力し、多くのコンテンツを用意することで、来校者が足を運びやすいブースづくりに尽力した。その結果、国際学部を訪れたほとんどの来校者に冊子を配布し、学生チャレンジ企画や当企画について説明することが出来た。また、国際学入門でのプレゼンテーションでは、事前のアンケートを基に、学生が知りたい情報・興味のある内容を意識して、学生チャレンジ企画や当企画についての発表を行った。学生からのフィードバックでは、当企画の目的にあった感想を書いていた。これらの活動は、拓殖大学や国際学部のPRや大学内の活性化に繋がったと確信している。

これからの活動では、それぞれの参加学生の出身校に冊子を送ることを考えている。また、冊子の内容は時間が経っても劣化しないため、次回以降のオープンキャンパスでも配布し説明することが可能である。また、海外で働く先輩に限らず、様々な分野で活躍されている先輩についても知りたいという意見も多くあったため、これからの活動の参考にしたい。



国際学入門での発表の様子

加えて、学内で制作した冊子を配布して、ブース内で先輩方や学生チャレンジ企画の紹介・説明をした。国際学部を訪れた多くの学生に冊子を配布し、説明することが出来た。

国際学入門の授業では、学生チャレンジの成果発表という形でのプレゼンテーションを行った。学生チャレンジ企画についての説明とともに、取材した先輩方の情報や、背景にある情報を説明した。事前アンケートに答えていた学生が大半だったため、多くの学生が集中して聞いていた。終了後には、授業の感想として学生からのフィードバックもあった。

活動の成果として、多くの学生と高校生に学生チャレンジ企画と海外で活躍する先輩方の情報を広めることが出来た。

### 会計報告

|                         |                      |      |          |
|-------------------------|----------------------|------|----------|
| 支出総額                    | 209,812円             | 活動資金 | 150,000円 |
| 内訳                      |                      |      |          |
|                         | 項目                   |      | 小計       |
| 冊子印刷費                   | 2,000部印刷 株式会社ラクスルを利用 |      | 150,000円 |
|                         |                      | 合計   | 150,000円 |
| その他活動資金以外にかかった経費【自己負担分】 |                      |      |          |
| 冊子印刷費                   | 株式会社ラクスル(予算超過分)      |      | 59,812円  |
|                         |                      | 合計   | 59,812円  |

### ▶ ホームページ掲載

- 実施企画書…………… <http://gakuchalle.jp/2018/kikakusho.html>
- 学チャレレポート…………… <http://gakuchalle.jp/2018/repo2.html>



実際に冊子に使用した写真の一例



オープンキャンパスでの高校生への説明の様子



オープンキャンパスで使用したブース





# 館ヶ丘団地新設の地域食堂「たてキッチンさくら」を支援するデザインプロジェクト

CDS(工学部・工藤研究室+国際学部・徳永ゼミ)

団体名 代表者 工学部 デザイン学科 4年 松本 真依  
参加メンバー人数 16名

## 実施スケジュール

平成30年5月7日～10月20日

- 5月7日 地域食堂となる店舗の現状確認(たてキッチンさくら)
- 5月9日 工藤研究室と徳永ゼミで打ち合わせ
- 5月11日 壁を使った有効性の会議
- 5月16日 館ヶ丘団地勉強会
- 6月21日 インフォメーションボードのデザイン決定
- 6月23日 館ヶ丘団地ボランティア説明会参加
- 7月4日 インフォメーションボード形状決定
- 7月20日 マグネットペイントを塗り
- 7月23日 ボードの制作
- 7月26日 チョークペイント
- 8月7日 工学部作業参加・チョークボード5枚完成・チョークボード3枚制作途中
- 8月23日 ボード取り付け
- 8月27日 蜜蝋を塗布
- 9月3～6日 チョークアート制作
- 9月8日 プレオープン、たてキッチンさくら試食会
- 9月9日 たてキッチンさくら・苗村さんとの会談
- 9月12日 第一回交流プログラム打ち合わせ
- 9月15日 第一回交流イベントポスター作成
- 9月18日 ポスター完成
- 9月20日 ポスター引き渡しと掲載
- 9月26日 交流イベント用のパワーポイント作成
- 10月2日 交流イベント開催打ち合わせ
- 10月6日 「第一回交流イベント」開催
- 10月19日 紅陵祭(ワークショップ)
- 10月20日 「第二回交流イベント」開催

## 実施内容・成果

拓殖大学八王子国際キャンパスに隣接する館ヶ丘団地は、1970年代初めに開設された大規模団地である。かつては1万人の居住者で賑わっていたが、現在、高齢化率54%、そのうち独居高齢者が約半数(800人)に達する超高齢化団地となっている。本プロジェクトは9月初め、同団地内商店街の一角に、住民主体の「団地応援隊」によって開設される地域食堂「たてキッチンさくら」を、地域のコミュニケーションハブとして機能させるべく、店内飲食スペースの壁面デザイン(『ミナカベ』)と、地域イベントの呼び水としてのワークショップ実施に取り組んだ。

### 1)『ミナカベ』の制作・施工および運用について(主担当:工学部・工藤研究室)

『ミナカベ』と名付けた壁面デザインは、店内左右の壁面に取り付けられた有孔ボードに金具を引っかけることにより、チョークで絵を描いたり、磁石でチラシ等を保持できるマグネット対応チョークボード(インフォメーションボード)と、様々な立体物を飾ることができる展示台(プラットフォーム)を自由に設置・可動できるものである。

インフォメーションボード(8枚)は、学内実習工場の加工機械を用いて、9mm厚のシナ合板から50cm角の板を切り出し、手掛かりを開け、ヤスリ掛けしてから、表面中央にマグネット

ペイント(3回塗布)とチョークペイント(2回塗布)を、表面木部に蜜蝋を塗布したもので、桜、空、植物をイメージしたピンク、ブルー、グリーンの3色がある。

プラットフォーム(13枚)は、同じく9mm厚のシナ合板から40×15cmの板を切り出し、引っ掛け金具保持のためスリット加工を施し、表裏に蜜蝋を塗布したものである。

これらは、地域食堂を飾る装飾として、また週末等に実施されるワークショップ等のイベント時の情報表現のメディアとして、地域コミュニケーションをサポートする。インフォメーションボードについては、開店に合わせて「秋の食材」をテーマにしたチョークアートを施し、店内に掲示しており、運営関係者や来店者に喜ばれている。このチョークアートは定期的に描き直していく予定である。

### 2)ワークショップ実施について(主担当:国際学部・徳永ゼミ)

『たてキッチンさくら』の開店からほぼ1ヶ月が過ぎた10月6日(土)の13時から、店内を会場に、同店初のワークショップ「団地住民と拓殖大学生の交流会」を開催した。開催にあたり、事前に店舗内にポスターを掲示し、参加者を募った。参加者は住民16名、CDS学生10名で、双方の基本情報(自治会からは団地の歴史や居住情報、CDSからは大学の歴史や



プレオープン

施設、ゼミ活動など)を共有した後、今後の協働活動について意見交換した。

次に、10月20日(土)13時から、第二回目のワークショップ「フォトフレーム作り」を実施した。当初、既製品を飾り付ける方向で進めていたが、最終的に板状の土台にフェルトを貼り付け、そこに写真を入れるポケットを作り、そのまわりを飾り付けることにした。土台は20cm角のプラスチック板で、参加者は好みの色のフェルトを選び、写真を入れるための切り込みを入れ、飾り付けた後、吊り下げ用の糸を付ける。金具を使って店内の『ミナカベ』に掲示することが可能である。イベント当日は小学生3名を含む15名ほどの参加者で賑わった。ワークショップを通して写真撮影が趣味の方から話を聞いたり、子どもたちと楽しく遊んだり、交流を深めることができた。

### 3)今後の期待

本プロジェクトの目的は「地域食堂のコミュニケーションハブ化」であり、そのための仕掛けづくりと呼び水としてのイベント実施を成功させた。すでに、法政大学グループが『ミナカベ』を利用して桜の木を模したメッセージボードを取り付けるなど、コミュニケーションハブとして機能しつつあり、拓殖大学の学生グループはもちろん、地域住民や近隣の団体など、ますますの利活用が期待できる。CDSとしては、今年度の学チャレ終了後も、チョークアート更新やワークショップ実施など、引き続き支援していく予定である。

## 反省点など

左記のとおり、当初の計画どおりプロジェクトを実施することができ、団地応援隊の方々はもちろん、多くの関係者から想像を超える評価をいただくことができた。もちろん、個別にみていくと、反省点や改善点に気が付くが、そのことも含め、今後の支援に役立てていきたいと考えている。また、『ミナカベ』については、ぜひ他の学生グループにも利活用していただきたい。

## 会計報告

| 支出総額 201,140円           |                                | 活動資金 200,000円 |
|-------------------------|--------------------------------|---------------|
| 内訳                      |                                |               |
|                         | 項目                             | 小計            |
| 消耗品費                    | プラットフォーム及びインフォメーションウォールに使用した木材 | 133,746円      |
|                         | プラットフォーム及びインフォメーションウォールに使用した塗料 | 25,025円       |
|                         | 塗装道具(筆、ローラー、バケツ)               | 2,433円        |
|                         | 木部保護のためのワックス、ウエス               | 12,021円       |
|                         | チョークアート資料                      | 12,739円       |
|                         | 紅陵祭用 材料                        | 1,512円        |
|                         | 第一回ワークショップ用 材料                 | 502円          |
|                         | 第二回ワークショップ用 材料                 | 8,430円        |
|                         | 模造紙                            | 427円          |
| 印刷費                     | 第一回ワークショップ用 ポスター印刷             | 1,600円        |
|                         | 第二回ワークショップポスター印刷代(一部自己負担)      | 1,565円        |
|                         |                                | 合計 200,000円   |
| その他活動資金以外にかかった経費【自己負担分】 |                                |               |
| 飲食代                     | 第一回ワークショップ用 飲み物                | 705円          |
| 印刷費                     | 第二回ワークショップポスター印刷代              | 435円          |
|                         |                                | 合計 1,140円     |

## ▶ ホームページ掲載

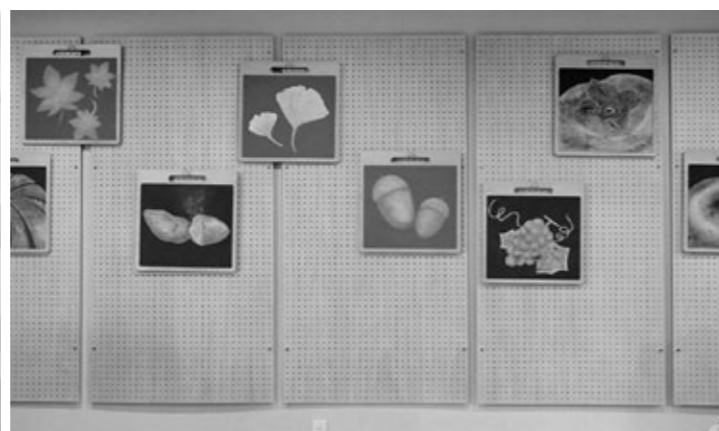
- 実施企画書..... <http://gakuchalle.jp/2018/kikakusho.html>
- 学チャレレポート..... <http://gakuchalle.jp/2018/repo3.html>



ボード制作



マグネットペイント塗り



チョークアート制作



蜜蝋塗り



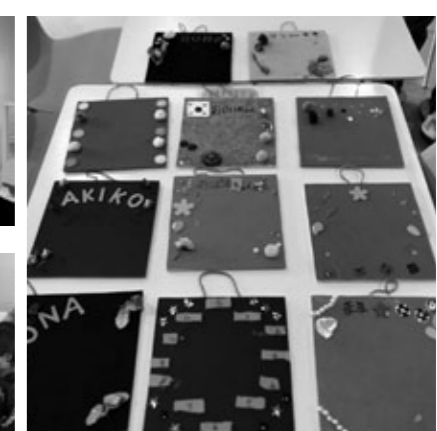
たてキッチンさくら内の蜜蝋塗り



第一回ワークショップ



第二回ワークショップ



第二回ワークショップ





# 成果報告発表会

## 採択団体による成果報告発表会 チャレンジ大賞、チャレンジ賞、奨励賞が決定

12月1日(土)、文京キャンパスで採択団体による成果報告発表会が行われました。今年度の活動の集大成として10分間の発表と実行委員からの質疑応答で、活動の成果を報告しました。芦田実行委員長は全体の講評として、「今年は例年にも増して各団体が素晴らしい活動をしていました。一年間の活動、本当におつかれさまでした」と、振り返りました。

最終結果は、チャレンジ大賞(グランプリ)に、CDS(工学部・工藤研究室+国際学部・徳永ゼミ)、チャレンジ賞(準グランプリ)に#MMP(MOTEGI Seminar "MOCHI" Project)、守山・渡邊ゼミ連合、奨励賞に、中国人留学生会、甲斐ゼミナールが決定しました。



中国人留学生会



#MMP (MOTEGI Seminar "MOCHI" Project)



守山・渡邊ゼミ連合



甲斐ゼミナール



CDS (工学部・工藤研究室+国際学部・徳永ゼミ)



成果報告発表会での様子

### 採択団体メンバー一覧

| 中国人留学生会       |    |     |              |
|---------------|----|-----|--------------|
| 商学部 国際ビジネス学科  | 2年 | 袁子堯 | 商学部 国際ビジネス学科 |
| 商学部 国際ビジネス学科  | 2年 | 劉書言 | 商学部 国際ビジネス学科 |
| 商学部 経営学科      | 2年 | 姜若琦 | 商学部 経営学科     |
| 政経学部 経済学科     | 1年 | 曹李  | 商学部 経営学科     |
| 商学部 経営学科      | 2年 | 蔡岳卿 | 商学部 会計学科     |
| 政経学部 経済学科     | 2年 | 羅鵬  | 政経学部 経済学科    |
| 工学部 電子システム工学科 | 2年 | 陳奕棟 | 政経学部 経済学科    |
| 工学部 電子システム工学科 | 2年 | 李克芝 | 政経学部 経済学科    |

| #MMP (MOTEGI Seminar "MOCHI" Project) |    |       |           |
|---------------------------------------|----|-------|-----------|
| 政経学部 法律政治学科                           | 4年 | 嶋村 理恵 | 政経学部 経済学科 |
| 政経学部 経済学科                             | 3年 | 阿蘇 拓也 | 政経学部 経済学科 |

| 甲斐ゼミナール   |    |        |           |
|-----------|----|--------|-----------|
| 国際学部 国際学科 | 3年 | 佐藤 幸人  | 国際学部 国際学科 |
| 国際学部 国際学科 | 3年 | 西山 七海  | 国際学部 国際学科 |
| 国際学部 国際学科 | 3年 | 新堀 瑠華  | 国際学部 国際学科 |
| 国際学部 国際学科 | 3年 | 小池 一成  | 国際学部 国際学科 |
| 国際学部 国際学科 | 3年 | 迫田 優理  | 国際学部 国際学科 |
| 国際学部 国際学科 | 3年 | 小林 蓮   | 国際学部 国際学科 |
| 国際学部 国際学科 | 3年 | 岩野 彩奈  | 国際学部 国際学科 |
| 国際学部 国際学科 | 3年 | 宇生 起子  | 国際学部 国際学科 |
| 国際学部 国際学科 | 3年 | 恩田 華奈子 | 国際学部 国際学科 |

| 守山・渡邊ゼミ連合   |    |        |             |
|-------------|----|--------|-------------|
| 政経学部 法律政治学科 | 3年 | 原田 大夢  | 政経学部 法律政治学科 |
| 政経学部 法律政治学科 | 3年 | 央倉 美聡  | 政経学部 法律政治学科 |
| 政経学部 法律政治学科 | 3年 | 飯島 めぐみ | 政経学部 法律政治学科 |
| 政経学部 法律政治学科 | 3年 | 梅 怡翎   | 政経学部 法律政治学科 |
| 政経学部 法律政治学科 | 3年 | 阿部 志生  | 政経学部 法律政治学科 |
| 政経学部 法律政治学科 | 3年 | 井之上和成  | 政経学部 法律政治学科 |
| 政経学部 法律政治学科 | 3年 | 鹿島 奈帆  | 政経学部 法律政治学科 |
| 政経学部 法律政治学科 | 3年 | 小村 奏理  | 政経学部 法律政治学科 |
| 政経学部 法律政治学科 | 3年 | 小屋松 泰士 | 政経学部 法律政治学科 |
| 政経学部 法律政治学科 | 3年 | 佐藤 聖大  | 政経学部 法律政治学科 |
| 政経学部 法律政治学科 | 3年 | 中田 りょう | 政経学部 法律政治学科 |
| 政経学部 法律政治学科 | 3年 | 橋本 葵   | 政経学部 法律政治学科 |
| 政経学部 法律政治学科 | 3年 | 佐野 季理  | 政経学部 法律政治学科 |
| 商学部 経営学科    | 3年 | 桑原 良太  | 政経学部 経済学科   |
| 商学部 経営学科    | 3年 | 吉田 朱里  | 政経学部 経済学科   |

| CDS (工学部・工藤研究室+国際学部・徳永ゼミ) |     |       |            |
|---------------------------|-----|-------|------------|
| 工学部 工学専攻                  | 院1年 | 高橋 拓夢 | 工学部 デザイン学科 |
| 工学部 デザイン学科                | 4年  | 寺嶋 裕  | 工学部 デザイン学科 |
| 工学部 デザイン学科                | 4年  | 依田 宗樹 | 国際学部 国際学科  |
| 工学部 デザイン学科                | 4年  | 新井 貴瑛 | 国際学部 国際学科  |
| 工学部 デザイン学科                | 4年  | 尾崎 瞳  | 国際学部 国際学科  |
| 工学部 デザイン学科                | 4年  | 下地 涼  | 国際学部 国際学科  |
| 工学部 デザイン学科                | 4年  | 手塚 吏音 | 国際学部 国際学科  |
| 工学部 デザイン学科                | 4年  | 松本 真依 | 国際学部 国際学科  |



**CDS**  
(工学部・工藤研究室+国際学部・徳永ゼミ)  
館ヶ丘団地新設の地域食堂「たてキッチンさくら」を支援するデザインプロジェクト



**受賞の感想**  
● 今後も後輩たちに引き継いで、団地とのつながりをより深めていきたいと思います。  
● 卒業までの残りの期間も団地応援隊の方々と一緒に楽しく過ごしていきたいと考えています。  
● 工学部の人たちと一緒に賞をもらったことがとてもうれしいです。

**活動を振り返って**  
● チョークアートを描いて、次の冬に向けてイラストを描こうとした時に、「消さないでください!」と言われ、絵を気に入ってくれたのだととても嬉しかったです。  
● 団地の方々の意見を取り入れながら、自分たちらしさを出すところに苦労しました。  
● 自治体とつながり、人脈を広げていくことができたことで視野が広がりました。

**委員長講評**  
地元の方々からの評判が大変良く、地道に地域活性化に取り組んでいた点が大変評価されました。工学部と国際学部の役割分担も整理されていてチームワークを發揮しました。八王子国際キャンパスのすぐお隣の館ヶ丘団地との交流を継続して、さらに地域コミュニティを活性化していただきたいと思います。

**代表挨拶**  
**工学部 デザイン学科 4年 松本 真依**  
工学部と国際学部の連携は大変でしたが、これからも館ヶ丘団地の方々と一緒に地域を盛り上げていきたいと思っています。今後もよろしくお願いたします。

**みなさんにとって学チャレとは?**  
● つながり。  
● 社会に出る第一歩だと思います。  
● 自分の想いを形にできること。  
● 学チャレは、喧嘩あり、涙ありの達成感を味わえるところだと思います。



**#MMP**  
(MOTEGI Seminar "MOCHI" Project)  
茂木ゼミナール「餅」プロジェクト 2018モンゴル (#MMP2018)



**受賞の感想**  
● 現地に行く前は、モンゴルの人にどうやら餅に親しみをもって食べてもらえるか、また、どうやら安全に食べてもらえるかを毎日考え、餅つきをするために研究室に通いました。人の命を救うということは、本当に大変なことで、難しいことだと実感しました。しかし、現地に行って、モンゴルの人たちの笑顔を見ることができて、本当に良かったなと思っています。受賞できたのはモンゴルの方々や関係者の方々のおかげです。  
● いるいると試行錯誤をして活動してきて、少しでも餅を広めるきっかけをつくるチャレンジになれたかなと思っています。  
● 実際に現地に行って、餅が広がる可能性を確実に見出すことができました。来年度からは今回の経験を活かして後輩に引き継いでもらいたいと思っています。

**活動を振り返って**  
● 現地の大使館の方々や遊牧民の方と本当に新しいつながりをつくることができました。機会があればこの経験を活かして、自分一人でもモンゴルに行き、現地ですることと協力していきたいと考えています。  
● 大学生活の中でこんなに餅をつきまじり、ないと思うくらい餅をつきました。  
● 旅行会社のツアーでは行けないような場所にも行くことができたので、貴重な経験をさせていただきました。  
● 人と人とのつながりがプロジェクトを大きくしてくれたということを実感しています。

**委員長講評**  
事前、実施、事後のシナリオがとてもよく、プレゼンテーション能力の非常に高いチームでした。最も評価された点は、チャレンジ力。国際貢献度も大きく、SNSを上手に活用して自分たちの活動を世界に発信しました。

**代表挨拶**  
**政経学部 法律政治学科 4年 嶋村 理恵**  
チャレンジ賞に選んでいただきありがとうございました。この企画を通して、さまざまな方々にご協力をいただいたことを改めて感謝申し上げます。来年度からは新しい後輩たちが活動を引き継いでいきますので、今後どうぞよろしくお願いたします。

**みなさんにとって学チャレとは?**  
● また新たなことに挑戦したいという自分と、誰かのために何かをやることに生きがいを感じている自分。二つの新たな自分を発見できた学チャレでした。  
● チャレンジすることはとても大事なことで、このことを今回の経験で学びました。  
● 学生チャレンジを通して、人は変われます。学チャレがあったから積極的になり、人と交流することができました。  
● 学生ならではの思考や発想、夢を存分に詰め込んで行える企画。



**守山・渡邊ゼミ連合**  
地域で守ろう「子どもの安全」～通学路の安心・安全



**受賞の感想**  
● 本当にやれるだけのことをやったので、とてもうれしいです。  
● 成果発表も自分たちがやってきたことをしっかりとまとめて伝えることができました。

**活動を振り返って**  
● チームをうまくまとめられなくて自信を無くしていた時期もありました。しかし、みんなの頑張りのおかげで自信を取り戻すことができました。みんな、ありがとう。  
● 小学校の方々から、防犯のまちづくりは地域を愛すること、地域の住民を愛することから始まるということを学びました。  
● 子どもたちにどうしたらわかりやすく伝えることができるか悩みました。相手の立場になって考える重要性をとても感じました。

**委員長講評**  
小学校での寸劇は事前にしっかり準備され、説得力があった活動が評価されました。見守り活動も、大人と子供の目線に注目し「人ではなく場所を見守る」の提言があったことが印象的です。日頃の学びの成果が良く出ていたと思います。

**代表挨拶**  
**政経学部 法律政治学科 3年 原田 大夢**  
今回は惜しくも大賞を逃してしまいましたが、目標の大賞はこれから入ってくる現二年生に期待したいと思っています。関係者の皆様、協力してくれたゼミ生の皆様、本当にありがとうございました。

**みなさんにとって学チャレとは?**  
● 学生の縮図です。学生生活の中で一番印象に残りました。  
● 大学生活で一番頑張ったことです。  
● これまでの先輩方や自分たちの活動も含めて、叡智を結集した企画です。  
● あえて難しいことに向かう気持ちが学べる場所。